



自然を  
楽しむ

⑧3

「猛毒から薬へ」

北村 豊

(小布施町栗ヶ丘)

8月末頃から咲く特異な花の形のトリカブトは猛毒で有名ですが、全草に毒が有り、何と花粉にも含まれるため、養蜂業者は巣箱を遠ざけて置きます。

毒は根に多く、含まれる何種かの毒成分の中でもアコニチンが最強で、致死量は僅か3～5mgの少量ですが、この毒の解毒剤・拮抗剤はありません。

しかし“修治”という加圧加熱処理法によって毒性は千分の一ほどにも弱くなり、鎮痛効果の高い薬として、また冷え症にも応用されています。